



地域貢献度ランキング全国女子大学 No.1 ※1
「組織・制度分野」 ※2 でも上位にランキング!

※1雑誌「日経グローバル」の調査「大学の地域貢献度ランキング」にて、本学は2011～2023年度（2016年度より嘉年華台）の間、9期連続で全国女子大学のうち第1位を獲得しています。
※2「大学の地域貢献度ランキング」のうち、地域貢献の推進に向けた組織・制度面の取り組みを調査する項目です。

学生の主体性やキャリア形成のための正課外教育プログラム 「Sagamiチャレンジプログラム」 による学修成果を紹介します。

この冊子では、「Sagamiチャレンジプログラム」のうち、同じ想いや目標を持つ学生による「プロジェクト団体」が地域や企業等と協働しながら、1年間にわたって活動した結果、どのような力を身につけたか、学生目線で紹介しています。

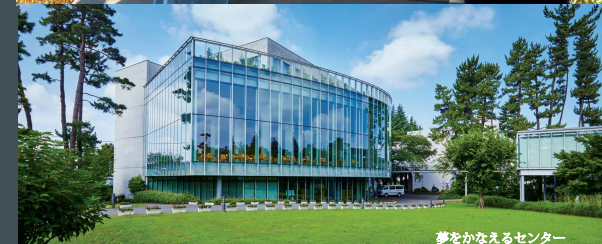
Sagamiチャレンジプログラム とは

本学では、学園スローガン「見つめる人になる。見つける人になる。」のもと、「しなやかな発想力と豊かな包容力を身につけながら、未来を、社会を見つめ、道を、答えを見つめる人になる。」そのような人材を育成することを教育目標に掲げています。

「Sagamiチャレンジプログラム」は、上記の教育目標に則り、「キャリア形成支援ポリシー」のもと、**授業以外で学生が主体的に取り組む正課外活動プログラム**です。



「復興支援学生ボランティア委員会」の学生



夢をかなえるセンター

相模女子大学・相模女子大学短期大学部
相模女子大学大学院ホームページ

大学の公式ホームページです。夢をかなえるセンターの取り組みに加え、各学部学科での取り組みや受験生のみなさんへ向けた最新のイベント情報、入試情報等を掲載しています。



<https://www.sagami-wu.ac.jp/>

夢をかなえるセンター特設サイト

学生による学生のための情報発信サイトです。夢をかなえるセンターで行う社会貢献活動や国際教育について、実際に活動に参加している学生から情報を発信しています。



<https://ymkn.sagami-wu.jp/>



125th Anniversary
since 1900
2025年、相模女子大学は創立125周年を迎えます。



相模女子大学・相模女子大学短期大学部

〒252-0383 神奈川県相模原市南区文京2-1-1 TEL 042-742-1411 (代表) / 小田急線相模大野駅下車徒歩10分

(大学院)栄養科学研究科 栄養科学専攻(博士前期課程・博士後期課程)・社会起業研究科 社会起業専攻(専門職学位課程) (大学)[学芸学部]日本語日本文学科・英語文化コミュニケーション学科・子ども教育学科・メディア情報学科・生活デザイン学科 [人間社会学部]社会マネジメント学科・人間心理学科 [栄養科学部]健康栄養学科・管理栄養学科 (短期大学部)食物栄養学科

<https://www.sagami-wu.ac.jp/>

問合せ先

夢をかなえるセンター 連携教育推進課 社会連携推進課
TEL 042-813-5038 FAX 042-747-9599 renkei@mail2.sagami-wu.ac.jp

2024年4月発行



相模女子大学・相模女子大学短期大学部
夢をかなえるセンター 連携教育推進課

「Sagamiチャレンジプログラム」に参加した学生が身につけた力

キャリア形成支援ポリシー

相模女子大学・相模女子大学短期大学部は、「社会との関わりの中で積み重ねる全ての経験を通して、社会と自分自身をしっかりと見つけ、自らの進む道を見つけ出し、人生を前向きに生きてゆくこと」を「キャリア形成」と位置付け、学生が、以下の力を身につけ、主体的に「キャリア形成」をするための「学びの場」を提供し、そこでの活動を支援します。

キャリア形成支援ポリシーにより学生が身につける力。

興味・関心を幅広く持ち、物事の本質を見つめ、筋道を立てて問題を解決する力。

課題発見力 計画立案力 実践力

社会との関わりにおける自分のありかたを考え、他者と柔軟なコミュニケーションをとり、協働できる力。

親和力 協働力 統率力

「働くこと」の意義を理解し、自分らしい生き方を見つけ出し、プランニングできる力。

感情制御力 自信創出力 行動持続力

社会人基礎力テストPROGでは、9つの力を7段階で評価しています。

1~4段階：学士課程終了レベル 5~6段階：社会人1~3年目に期待されるレベル 7段階：若手リーダーレベル

対課題基礎力	対人基礎力	対自己基礎力
①課題発見力 課題の所在を明らかにし、必要な情報分析を行う	④親和力 他者との豊かな関係を築く	⑦感情制御力 気持ちの揺れを制御する
②計画立案力 課題解決のための適切な計画を立てる	⑤協働力 目標に向けて協力的に仕事を進める	⑧自信創出力 前向きな考え方ややる気を維持する
③実践力 実践行動をとる	⑥統率力 場をよみ、組織を動かす	⑨行動持続力 主体的に動き、良い行動を習慣づける

※PROGについて：(株)リアセックが提供する「学生に社会が求めるジェネリックスキル(社会人基礎力)」を測定

case 1

実践力・協働力が伸びました！

実践力



【大学1年】 【大学3年】

協働力



【大学1年】 【大学3年】

Student's Voice



武井 ひなきさん
学芸学部 子ども教育学科
3年(撮影当時)
復興支援学生ボランティア委員会

私はSagamiチャレンジプログラムに参加をして、「実践力」と「協働力」の2つが大きく成長したと感じています。1年生から復興支援学生ボランティア委員会に所属し、今年委員長を務めています。「実践力」では、4月に「どのようなことをやりたいですか？」とメンバーに聞いたところ、「学園祭で出店したい！」と声がかかりました。そこから約半年間かけて大船渡のお菓子屋さんとオンラインミーティング等を通し、メンバーの声を反映しながら、11月には学園祭でコラボスイーツを販売し、復興支援学生ボランティア委員会 所属大盛況で終わることができました。また、インスタグラムのフォロワーやいいねが伸び悩んでいることから、メンバーと話し合う機会を設け、更新頻度をあげることを決めました。委員長になり、私1人では思いつかないような意見とも出会い、メンバーの意見に耳を傾けながら、チームでより良い成果を上げるために行動ができるようになりました。「協働力」ではメンバー全員が「居心地が良い」と感じるように、関係性作りも大切にしました。分かりやすい文章で連絡することはもちろんのこと、普段の何気ない会話も大切にしました。さらに自分では気づきませんでしたが、「武井さんは話しやすい雰囲気があるよね。〇〇さんは前も素敵な意見を言ってくれたから、どうかな？と聞いてよかったよ。」と聞いていただくこともありました。その言葉を聞いて振り返ってみると、今年度行った小学校での教育実習のことを思い出しました。指導していただいた先生から、「子どもとの関わり方が上手だね」と言っていたきました。活動を通して身につけることができた力は、活動以外でも生かすことができていると思います。

3年間の活動を通して自分自身を見つめ、多くの人や考えと出会うことができました。これらの体験が「実践力」と「協働力」の2つの成長に繋がったと思います。

学生のキャリア形成を支援する教育プログラム「Sagamiチャレンジプログラム」の活動で学生がどのような力を身につけたか、実際に活動に同行いただきご家族の視点から評価いただく「学生活動モニター」を実施しました。今回は「復興支援学生ボランティア委員会」の活動に同行いただいた学生のお父様より、学生の成長に対する評価いただきました。

実践力については、今自分がやるべき事、任されたことについて目標を明確に持ち、それに向かい達成するための努力を惜むことなく発揮し、親と離れて生活するようになり、改めて自立してきたように思います。今回私も活動に参加させていただきましたが、様々な場面で自分から積極的に話し掛け、地域の方々とも関わっていました。また自分で決めたことに対し途中で投げ出すことのない責任感の強い面もあります。高校3年生のふとした折に「人の役に立ちたい」と話してくれたことを思い出しました。同じ志を持ったメンバーと互いに意見を出しながら計画を立て、話し合い、実行に移したのだと思います。そうしたことからも、相補的な協働力が身に付いていると感じました。

これから進路に向け更に多忙な毎日になるとは思いますが、どんなことに対しても自分から意欲的に挑戦し、夢を実現してほしいと思います。



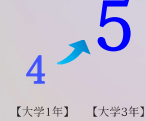
武井 真二さん
(学年のこ家)

津波被害を受けた大船渡市高島(おきら)地区の産業用用庫に建てられたイチゴ栽培ハウスでのイチゴ狩り体験

case 2

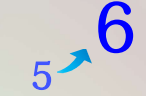
自信創出力・統率力が伸びました！

自身創出力



【大学1年】 【大学3年】

統率力



【大学1年】 【大学3年】

Student's Voice



渡邊 菜花さん
栄養科学部 健康栄養学科
3年(撮影当時)
電子回路ベンプロジェクト 所属

私がこれまでのSagamiチャレンジプログラムに参加をして、特に成長を感じた部分は「自信創出力」と「統率力」の2つです。成長した過程として、年間を通じて活動する電子回路ベンプロジェクトをはじめ、様々な短期の活動に参加してきたことが大きく関わっています。私が現在、副リーダーを務めている電子回路ベンプロジェクトの活動では、学内体験会や小学校での出前授業にて電子回路ベンを用いた講座を行っています。学内体験会では、呼び込みから会場への誘導、講座の説明までを一人で行うため、初対面の学生相手に最初のころは緊張してスムーズに行うことができませんでした。そこで、先輩方の言動を真似することや、自分なりに工夫したところ、体験した学生から「分かりやすかった」と声をいただき、また先輩からも「上手だった」と褒めていただきました。複数回行われたこの体験会を経たおかげで、人前に立つ自信が持てました。また、小学校での出前授業においても、体験会で身に付けた事をもとに、子供たちに分かりやすい言葉遣いと、講座を楽しんでもらう工夫をしたことで、「楽しかった」と喜んでもらうことができました。挑戦・工夫・達成この3つの段階を繰り返して経験したことで、「自信創出力」が身に付いたと思います。

プロジェクト活動の他にも、短期の活動に参加するなかで、他学科の学生や先輩と交流する機会がよくありました。グループでの行動を求められる場面もあり、積極的にコミュニケーションをとることや、先輩としてサポートできるところを探すことで、円滑に活動できるよう心がけました。全体で話し合う場面では意見を積極的に出し、関連付けて他の人に質問することで新たな視点やアイデアが出ることもありました。明確なリーダーという立場ではありませんでしたが、似たような状況を経験したことで「統率力」が身についたのだと思います。

学生のキャリア形成を支援する教育プログラム「Sagamiチャレンジプログラム」の活動で学生がどのような力を身につけたか、今回は「電子回路ベンプロジェクト」の活動を支援いただいている学外アドバイザーより、学生の成長に対する評価いただきました。

このプロジェクトに入りたての頃と今の渡邊さんを比較すると、「自身創出力」「統率力」の成長は確かに感じたと思います。それに加えて「視野の広さ」と「積極性」という、とても素晴らしい素質を持っています。「視野の広さ」→「社会人」という立場の間と接することで、違う考え方や視点があるということに気づかれたと思います。会議でも、自分の意見に対するこちらの意見を「なるほど」と飲み込み、違う結論になることをそんなに無理なく受け入れていた様子が見れます。

「積極性」→おそろく徐々にプロジェクトへの思いが強くなったこともあり、大学内のメンバー増加のための体験会などで積極的に学生に声掛けをされています。また、新しいアイデアもたくさん、諦めずに発言されています。

来年度は4年生となり、リーダーとしてプロジェクトを引っ張る立場になります。挑戦・工夫・達成のサイクルを加速させ、更なる成長を期待しています。



山本博之さん
(学外アドバイザー)